

■鈴木大拙 宗教家，仏教学。者英米と深い関係を築き，仏教や禅思想を広く世界に紹介，内外の学者から尊敬された。

すずきだいせつ

初の日刊新聞1870＝ 金沢の医家の末子に生まれる。

明治6年政変 1873＝ 3歳：

琉球処分・・・1879＝ 9歳：

明治14年政変1881＝11歳：

岩倉具視没・1883＝13歳：石川専門学校付属中学校に入学。

国民之友始・1887＝17歳：卒業，学制改革による第四高等学校予科3年に編入学，西田幾多郎を知るも，まもなく家の都合で退学。

初の対等条約1888＝18歳：

帝国憲法発布1889＝19歳：能登飯田小学校高等科の英語教師となる。

帝国議会始・1890＝20歳：石川県美川小学校高等科訓導となる。

足尾鉾毒始・1891＝21歳：上京し，東京専門学校に入る。鎌倉門覚寺今北洪川に参禅，修行に熱中。友人西田幾多郎の上京により，ともに東京帝国大学選科に進む。

大本教・・・1892＝22歳：円覚寺管長となった釈宗演について参禅し，大拙の道号を受ける。

郡司千島探検1893＝23歳：釈宗演の講演原稿を夏目漱石の援助で英訳。

日清戦争始・1894＝24歳：

日清戦争終・1895＝25歳：米人ポール・ケーラスの「仏陀の福音」を邦訳出版，また処女作「新宗教論」を著す。

八幡製鉄始・1897＝27歳：釈宗演の推薦で渡米。イリノイ州の出版社オープン・コートに入り，哲学者ポール・ケーラスを助け東洋学関係の出版に従事。

バア/国産化・1900＝30歳：「老子道德経」「大乘起信論」を英訳。

この間，「大乘起信論」の諸概念を再構成して，みずからの東方哲学を築いて行く。

日露戦争終・1905＝35歳：渡米してきた釈宗演の通訳となって東部の各地を巡る。

満鉄発足・・・1906＝36歳：

韓国反日暴動1907＝37歳：メイン州で*初めて仏教講演をおこない，初の英文で代表作となる著書「大乘仏教概論」をロンドンで出版。

アソシ 創刊・1908＝38歳：ヨーロッパに渡り，ロンドンのスウェーデンボルグ協会の招きで「天界と地獄」を邦訳。

伊藤博文暗殺1909＝39歳：帰国。学習院ついでまた東京大学の英語の講師となる。

韓国併合・・・1910＝40歳：学習院教授となる。雑誌{禅道}を編集。

大逆事件判決1911＝41歳：ビーアトリス・レーンと結婚。短期間渡米。

明治天皇没・1912＝42歳：

大正政変・・・1913＝43歳：「スウェーデンボルグ」「禅学大要」を刊行。東京大学講師を退職。

第一次大戦始1914＝44歳：ロバートゾン・スコット編集の雑誌{ニュー・イースト}に禅に関する論文の連載をはじめる。

21ヶ条要求・1915＝45歳：

民本主義・・・1916＝48歳：学習院寮長となり，学生を引率して中国を旅行。「禅の研究」ほかを刊行。

原敬首相暗殺1921＝51歳：大谷大学教授として京都に移り，*東方仏教徒協会を設立し，英文雑誌{イースタン・ブディスト}を創刊。

護憲三派圧勝1924＝54歳：その後20年にわたって刊行を続け，仏教や禅思想を広く世界に紹介して行く。

金融恐慌・・・1927＝57歳：英文「禅に関する論文集(第1集)」を刊行。

世界恐慌・・・1929＝59歳：夫人とともに鎌倉に動物愛護慈悲園を創立。

海軍軍縮条約1930＝60歳：如来蔵と法身を中心課題に，英文で「楞伽經研究」を書き上げ，

満州事変・・・1931＝61歳：

国際連盟脱退1933＝63歳：英文「禅に関する論文集(第2集)」を刊行。大谷大学から文学博士を授与される。

帝人疑獄事件1934＝64歳：朝鮮・満洲・中国に仏教の古跡を訪ねる。英文「禅に関する論文集(第3集)」を刊行

二二六事件・1936＝66歳：ロンドンの世界信仰大会に日本代表として渡英。

日中戦争始・1937＝67歳：アメリカより帰国。

健保+総動員 1938＝68歳：英文「禅と日本人」を刊行。

第二次大戦始1939＝69歳：夫人死す。「無心について」を刊行。

大政翼賛会・1940＝70歳：邦訳「禅と日本人」を刊行。

日米開戦・・・1941＝71歳：{イースタン・ブディスト}廃刊。

・・・1942＝72歳：「浄土系思想論」ほかを刊行。

創価学会検挙1943＝73歳：「宗教経験の事実」「禅思想史研究」「禅の思想」等を刊行。

年金+総武装 1944＝74歳：「日本的靈性」ほかを刊行。

敗戦・・・1945＝75歳：西田幾太郎が死去。

新憲法公布・1946＝76歳：「日本的靈性的自覚」「靈性的日本の建設」を刊行。*鎌倉に松ヶ岡文庫を創設，多年蒐集の禅文献を収める。

三大事件・・・1949＝79歳：日本学士院会員となり，文化勲章を受章。戦中，戦後を書き継いできた禅思想史の完結編「臨済の基本思想」を刊行，大乘仏教の「法身」とギリシャ哲学(プロティノス)の「一者」は等しいとの結論に至る。以後，アメリカのコロンビア大学を主に，欧米各国の大学を講義往復，多数の英文・邦文著書を刊行。

独立回復・・・1951＝81歳：

テレビ放送始 1953＝83歳：ユング思想をベースにした，スイスのエラノス会議に招かれ，ユング，ハイデッガーらと対話。

自衛隊発足・1954＝84歳：再び，エラノス会議に出席。

安保闘争・・・1960＝90歳：国賓としてインドを訪問。内外の学者による満90の頌寿記念論文集「仏教と文化」が刊行される。

以後，主として松ヶ岡文庫にあって研究生活をつづけ，

TV宇宙中継始1963＝93歳：「教行信証」全6巻の英訳も完成したが，

いざなぎ景気1966＝96歳：没した。

同郷の西田幾多郎，藤岡作太郎と親交を結び，加賀の三太郎と称された。

中公シリーズ「日本の名著」，「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，山田風太郎「人間臨終図巻」，日本の古典名著。安藤礼二「井筒俊彦 起源の哲学」で追補，